

茅野市の財政状況と今後の見通しについて



バックナンバー
はこちら！

問 財政課 財政係 ☎72-2101（内線164・165）／行革推進係（内線168）

茅野市のこれからの財政運営に影響を与える大規模な事業を実施するか否かを判断した上で、そこにかかる費用や実施時期をもとに市の財政状況の推計をしました。

一般財源必要額の推計と基金取崩額

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
一般財源必要額	202億8253万円	208億5489万円	207億2512万円	209億3516万円	207億8962万円
一般財源総額 (基金取崩額を除く)	195億4209万円	195億4209万円	195億4209万円	195億4209万円	195億4209万円
基金取崩額	7億4044万円	13億1280万円	11億8303万円	13億9307万円	12億4753万円

※R7年度は予算額

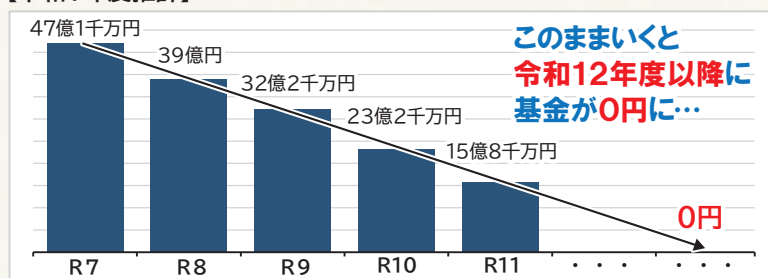
※基金取崩額を除く一般財源総額は令和7年度の額を固定値として令和8年度以降も計上

5年間で合計58億8千万円の財源不足

基金残高の推計（決算を考慮した場合）

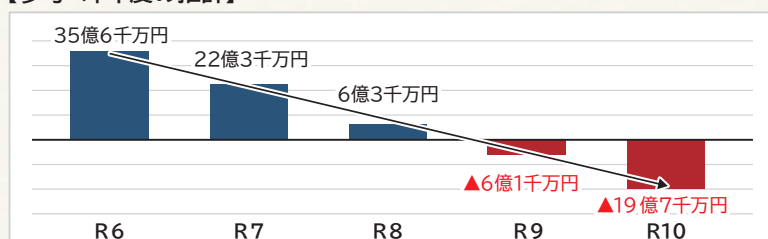
令和5年度と令和6年度に基金の取崩しを行わなかったことや、国からの普通交付税の追加交付を基金への積立てに充てることができたことなどから、令和6年度の推計と比較すると、基金残高は好転しています。しかし、依然として令和11年度までの5年間は、総額で58.8億円の財源不足が生じる見込みのため、基金の繰入なしに予算を組むことができません。基金残高が0円になると財源不足を基金の繰入で補えなくなります。その結果、公共サービスの低下など、市民の生活に影響を与えてしまい、本当に必要とする人に対して、必要なサービスを提供できなくなってしまう可能性があります。将来に向けて、さらなる行財政改革の取組が必要であると考えています。

【令和7年度推計】



昨年度の推計と比較すると好転しています。しかし、残高は依然として減少していく推計です。

【参考 昨年度の推計】



用語解説

- 一般財源とは…地方自治体において、使い道に指定がなく自由に使えるお金のこと（例：市税、地方交付税など）
- 基金とは…特定の目的のために積み立てたお金のこと。家庭に置き換えると預貯金のこと（例：財政調整基金、減債基金、公共施設整備基金など）

茅野市はどんなことに取り組むの？

- ▶**歳入の確保** 交流人口・関係人口の創出や定住人口の増加による市税等の増加、市有財産活用による新たな財源の確保（ネーミングライツ）、ふるさと納税のPR強化、使用料等の見直しなど
- ▶**適正な歳出** 事業の見直しによる財政構造改革の推進、計画的な事業の実施、人と組織と予算の抜本的な見直し（事業や組織の見直しと連動した職員の適正配置と総数管理）、補助金等の見直しなど

将来に渡って、持続可能な茅野市であり続けるために、変えるべきことは変える必要があります。今何ができるのか、何をしなければいけないのか、スピード感を持って検討を進めていきます。

『行財政改革待ったなし～持続可能な茅野市であるために～』タイトルリニューアル

10年、20年後どんな茅野市が想像できますか。安心して暮らせるまちにしていけるために、単に予算を削減することを考えるのではなく、時代の変化に合わせて茅野市を変革し、未来へ投資できる茅野市に変えていく。茅野市を変えるのは今しかない。そんな思いを表しました。市民の皆さんも一緒に茅野市を変えていきましょう。

茅野市を変える
茅野市は変わる

今しかない、
未来のための
行財政改革